

概要

- 下都賀地域では、令和2年までにGAP農場点検・改善を実施したJA生産部会は35部会中9部会であり、**大半の部会は組織ぐるみのGAPの精度向上の取組に至っていない**と分析。
- JAと連携し、生産部会に対してGAPの農場点検実施を推進した。また、GAP指導員による意欲ある個人出荷者へのGAP取組指導を行った。その結果、**新たに3部会がGAP農場点検に取り組んだ**他、新たに4名の**個人出荷者及び1部会（2支部）がとちぎGAPの第三者確認制度の確認証交付を受けた**。
- 有機農業の栽培技術は体系化されておらず、**自らの技術を確認している有機農業者に直接指導を受けることしか技術習得の場がないことが課題**。
- 水稻の有機栽培において、小山市有機農業推進協議会と連携し、有機農業推進アドバイザーの事例調査や技術実証展示ほの設置調査を行った。**ベテラン生産者が実践する栽培技術を可視化**し、有機農業に取り組んで間もない生産者が参考とできるように技術資料としてまとめた。

具体的な成果

1 生産部会による組織ぐるみのGAP精度向上

- 新たに3部会においてGAP農場点検を実施、改善結果を部会員で共有。
(R2年度 → R5年度)
9部会 → 12部会
- 1部会が団体でとちぎGAPの第三者確認制度による確認証の交付を受けた。

2 個人出荷者等によるとちぎGAP第三者確認の実施

- 4名の個人出荷者が新たにとちぎGAPの第三者確認制度の確認証交付を受けた。
(R2年度 → R5年度)
1名 → 5名

3 有機水稻栽培技術の体系化

- ベテラン生産者が実践する栽培技術をデータ化し、技術資料にまとめた。
- 労働時間及び経営分析により、**安定して収量が確保されれば、慣行栽培と比較して経営的に有利になる可能性**が示唆された。



農場点検の様子



展示ほにおける田植え

普及指導員の活動

令和3～5年度

- JA及び生産部会役員と打ち合わせを実施し、部会ぐるみのGAP点検を行う部会を選定。**代表者による農場点検を行い、部会の集会等に併せて改善点を共有**。
- JAと連携し**毎部会2支部でとちぎGAPの第三者確認制度への取組を支援**。
- 意欲ある**個人出荷者に対し、GAPの考え方に基づく記録書類や農場の管理方法を指導支援**。

令和4年度

- 小山市有機農業推進協議会と共に、有機農業推進アドバイザーや新規取組者のほ場について、**事例調査としてとりまとめ、技術資料を作成**。

令和5年度

- **技術実証展示ほを設置**し、ベテラン農家の栽培技術（代かき、水管理等）及び有機栽培における労働及び経営について分析。
- 小山市有機農業推進協議会と共に**現地検討会及び成績検討会**を開催し、技術資料及び結果を共有。

普及指導員だからできたこと

- ・ **GAP指導員とJA生産部会に近い普及指導員が連携**し、生産者への働きかけを継続して行ったことで、その重要性が理解され、組織ぐるみの活動につながった。
- ・ 展示ほの設置や事例調査を普及指導員が主体的に行ったことで、**技術のポイントを可視化でき、詳細な考察が可能**になった。

未来へつなぐ環境保全型農業の推進

活動期間：令和３年度～（継続中）

１．取組の背景

持続可能な農業の実現のためには、環境負荷の低減、安全・安心な農産物の生産、労働安全性の確保が重要である。GAP はこれらの課題解決が期待できることから、産地の信頼と継続性を維持するために、部会単位での取組を推進する必要がある。下都賀地域では、令和２年までに GAP 農場点検・改善を実施した JA 生産部会は 35 部会中 9 部会であり、大半の部会は組織ぐるみの GAP の精度向上の取組に至っていない。

また、農業分野における環境負荷低減については、令和５年３月に「とちぎグリーン農業推進方針」が策定され、その目標の１つとして有機農業の取組面積の拡大が掲げられた。しかし、有機農業の栽培技術は体系化されておらず、自らの技術を確立している有機農業者に直接指導を受けることしか技術習得の場がないことが課題となっている。

そこで、GAP の精度向上のため、意欲ある農業者から GAP の取組を始められるよう、生産組織及び個人の取組を推進した。また、とちぎグリーン農業推進のため、小山市有機農業推進協議会と連携し、栃木県有機農業推進アドバイザー等の有機水稻栽培技術の体系化を目指した。

２．活動内容（詳細）

（１）指導・支援体制

GAP の精度向上のため各生産部会役員、JA 及び所内の技術担当普及指導員と連携し、GAP の農場点検を部会ぐるみの取組とした。

また、有機水稻栽培技術の体系化のため、小山市有機農業推進協議会との連携のもと技術実証展示ほを設置し、水稻の有機栽培における技術の検証を行った。調査結果及びデータについては、有機農業推進アドバイザーの協力を得て考察をまとめた。

（２）活動経過

ア GAP の精度向上（令和３年度～）

生産部会の大半は GAP チェックシートによる自己点検を実施しているが、実際は各点検項目への理解や取り組み方にばらつきがある。生産工程管理や安全管理の見直しが部会全体の取組となるよう、部会員同士の相互点検や情報共有による GAP の精度の底上げを目指した。個人出荷者等に対しては、とちぎ GAP の第三者確認取得のための指導を実施した。

イ 水稻における有機栽培技術の体系化（令和４年度～）

令和４年度は有機農業推進アドバイザーが栽培する水稻ほ場の生育調査や、水管理及び抑草技術について聞き取りによる事例調査を行った。令和５年度は新たに水稻の有機栽培に取り組む生産者との連携により展

示ほを設置し、雑草の抑制技術の検証や労働時間、経営分析を行った。有機農業推進アドバイザーの意見を参考にしながら実績をとりまとめ、成績検討会において小山市有機農業推進協議会と共有した。

3. 具体的な成果（詳細）

(1) GAP の精度向上

ア 組織ぐるみの取組による GAP 精度の向上

部会役員や関係者と協議を重ね、新たに3つの生産部会において、代表者の農場における GAP 農場点検を実施した（写真1）。いずれの農場も適正な農場管理がなされている一方で、改善すべき点が確認された。その後、改善結果を含めた点検内容を部会員に共有した。また、JA しもつけの苺部会では、2支部が団体でとちぎ GAP の第三者確認に取り組み、確認証の交付を受けた。



写真1 農場点検の様子

イ 個人出荷者等によるとちぎ GAP 第三者確認の実施

意欲ある農業者に対し農場点検を支援したところ、令和3年度1名、令和4年度2名、令和5年度1名が新規にとちぎ GAP の第三者確認を申請し、確認証交付を受けた。過去に確認証交付を受けた1名も継続的に点検を行い、管内で5名が第三者による GAP の取組の評価を受けている。

(2) 有機水稻栽培技術の体系化

有機農業推進アドバイザーへの事例調査及び展示ほの調査結果から、有機栽培における雑草抑制においては、適切な代かきと水管理が重要であることが改めて確認された。また、労働時間及び経営分析から、雑草抑制に成功し、かつ収量が確保されれば、慣行栽培よりも経営的に有利になる可能性が示唆された。これらの調査結果は、有機水稻の栽培に取り組んで間もない生産者の参考となるように技術資料としてとりまとめ、小山市有機農業推進協議会の成績検討会において共有した。



写真2 展示ほにおける田植え

4. 農家等からの評価・コメント

(1) GAP の精度向上

自分では適正に管理しているつもりだったが、今回新たな学びもあり、GAP への理解がより深まったので、農場点検を実施してよかった。（農場点検実施農家 K 氏）

(2) 水稻における有機栽培技術の体系化

もともと水の入りにくいほ場であったため、雑草対策において重要な水深の維持が難しかった。達観では慣行栽培を実施していた昨年度と同じか、若干ヒエの発生が少なく感じたので、代かきの効果かと思う。田植え後に水田に入らなくていい農法は魅力的なので、挑戦を続けたい。（展示ほ担当農家 S 氏）

5. 普及指導員のコメント

（下都賀農業振興事務所 主任 新井麻衣子）

持続可能な農業のためには、GAP や環境負荷低減技術への取組など、幅広い視点で様々な課題に対応する必要がある。

今後は実需からも GAP の取組を求められる場面が増加することが予想され、生産部会全体で GAP への理解や取組の平準化を図ることが、産地の信頼確保においてより一層重要になる。JA 生産部会や意欲ある生産者への働きかけを継続して行ったことで、その重要性が理解され、組織ぐるみの活動につながった。

ベテラン生産者が実践する水稻の有機栽培技術を調査等により可視化したことで、より詳細な考察が可能になった。有機栽培はほ場条件等により安定して収量を得ることが難しいが、それらの条件に応じた対策も含めて体系化が実現すれば、普及指導員による技術指導が可能になり、有機農業取組面積拡大への推進力になることが期待できる。

6. 現状・今後の展開等

(1) 組織ぐるみの GAP 精度向上の実施拡大

JA 生産部会のうち農場点検未実施の部会や、GAP チェックシートの未整備の部会に働きかけ、生産部会の意向や取組レベルに応じて、少しずつでも向上できるよう支援する。また、GAP への取組意欲の高い生産者個人に対しては、とちぎ GAP の第三者確認や国際水準 GAP 認証取得を支援していく。

(2) 水稻における有機栽培技術の体系化

展示ほにおける調査結果や有機農業推進アドバイザーへの事例調査結果をもとに、水稻における有機栽培技術の体系化を進める。さらには、普及指導員による技術指導へと展開し、有機水稻栽培に新規に取り組む生産者の取組拡大につなげていく。

(3) とちぎグリーン農業の推進

「とちぎグリーン農業推進方針」では、環境負荷の低減と収益性の向上との両立を目指している。具体的な推進方策として、環境負荷低減技術の導入促進及びみどり認定の推進、有機農業取組面積の拡大、市町によるグリーン農業推進協議会の設立やオーガニックビレッジ宣言の支援に取り組んでいく。